



恵那市教育研究所
<http://www.ena-gif.ed.jp/>

恵那市長島町正家一丁目1番地1 恵那市役所西庁舎4階
TEL(0573) 26-6850 FAX(0573) 26-2155

「龍」 上矢作中学校
3年生 安藤 暖大

学校の伝統と誇りの継承

恵那市小中校長会 会長 梶 博子



赴任して3年目の恵那西中学校は私の母校です。今から45年前、恵那西中学校、武並中学校、三郷中学校が統合して、現在の恵那西中学校になりました。私は統合1年目の卒業生です。赴任する直前に、中学校の恩師から連絡をいただき、

「あの時の苦労を子供たちに話してやってほしい。」と言われました。確かに学校が遠くなったり、体育館がまだ出来ていないためにホールで体育の授業を行った記憶はあります。それでも、きれいな校舎で授業ができること、統合前に修学旅行を実施したのに3年生でも研修旅行に行けたこと、仲間が増えたことなど、楽しい思い出が多く、生徒として苦労など感じたこともありませんでした。

しかし、今考えてみると、日課、行事、きまり、校内組織など全ての教育課程を作らなければならないこと、3校の生徒が目標を共にして活動するため、地域の不安を払拭するために、どれだけ先生方がご苦労されたかと考えると、並大抵のことではないと想像ができます。そんな中でも、私たち生徒には先生方や地域の方々の苦労を感じさせることなく、楽しい日々を送らせていただいたことに感謝しています。

学校では、新しい取組を始めることができます。それがうまくいっても、何年か経って多くの教職員に入れ替わると、それが何のために始まったのかも忘れ去られ、形骸化されて、やがて消えていくものもあります。一方で、何年も続くものもあります。その違いは

どこにあるのか考えると、一番は生徒たちが次の世代に伝えていくかどうかです。生徒自身が形だけでなくその価値を感じ、後輩に繋いでいくことが伝統を創り出します。もう一つの違いは地域の人が、学校で行われていることを知り、認め、ずっと続いて欲しいと願うかどうかだと思います。学校の活動、その意義を地域に発信し、時には地域と共に取り組むことで、それは実現すると考えています。

本校の生徒に「この学校の伝統、誇りは何ですか」と聞くと、「合唱」と答える生徒が多くいます。合唱をすることが伝統ではなく、「仲間と共に自治力を発揮して合唱を創り上げる過程で成長できること」が生徒に感じさせたい価値、誇りであり、生徒が繋いでいきたいと感じている伝統です。これから先、新たな時代へとアップデートし、形は変わるかもしれません、その精神的な在り方は変わらず継承していきたいものと考えています。

その精神のもととしているのは、創立10周年の時に設定された校訓「自律・創造」です。私自身が学校経営の核としており、毎年入学式で生徒にもこの校訓を伝えてきました。「こんな学校にしたい」「こんな生徒を目指したい」と価値観を共有するためです。

創立当時の苦労を生徒たちに語ることは難しいですが、生徒、地域と共に良さの継承、新たな創造をして、今の充実を図っていきたいと思っています。

恵那市ではまもなく新しい学校が開校します。それぞれの学校のよさを引き継ぎ、新たなものを創造していくことだと思います。

すべての卒業生が母校を誇りに思えるように。



ドリルパークを使って基礎学力をつける

恵那市の課題である「家庭学習の充実」と「基礎学力の定着」の一助としてドリルパークを導入しました。ドリルパークは、即時の正誤判定や、AIによる自分に合った問題の出題等、様々な機能があり、宿題での活用はもちろん、自分のペースで行う自主学習に活用できます。積極的にドリルパークを活用し成果を上げている上矢作小学校の取組について伺いました。

上矢作小学校ではドリルパークの利用率が常に高いです。利用率が高いのはどうしてですか？

昨年度末の先行実施期間において、ドリルパークの校内研修を行い、現行で利用しているアプリとの共通点と相違点、ドリルパークの機能、特に漢字の書き順の正誤判定が設定できること、利用の仕方（テスト前の利用、漢字習熟の取組）などを職員間で共通理解しました。それから、積極的に利用し、継続的に取り組むことが続いています。

また、月の取組数を決め、その数を超えた児童には、校長より『ドリルパークがんばり賞』として賞状を渡したり、校長室前に名前と取組数を紹介したりしており、そのことも児童のドリルパークに取り組む外発的な動機になっています。

上矢作小学校では、学校外での利用も多いのですが、どのように指導していますか？

家庭学習として、発達段階を踏まえながら、各担任が考えて取り組んでいますが、次のような取り組み方があります。

- ・家庭学習において、1日どれだけ取り組むとよいかを伝える
- ・課題配信機能を利用して、問題を決め宿題として取り組むように伝える
- ・自主学習や長期休暇における自主学習として紹介している
- ・テスト勉強として取り組むところ、取り組んだ方がよいところを紹介している
- ・新出漢字の効果的な学習の方法を紹介している
 - ①新出漢字の学習の最初にドリルパークを利用して漢字と書き順を覚える
 - ②紙のドリルに書き順を意識しながら、丁寧に書く
 - ③ドリルパークを利用して習熟を図る



保護者へはどのように伝えていますか？

年度初めのPTA総会において、市教委が作成したチラシを基にドリルパークの説明を行いました。また、家庭学習週間のお知らせにおいて、ドリルパーク活用を推進していることを紹介しています。

ドリルパークを積極的に利用することでどのような力が高まりましたか？

6年生の学力・学習状況調査の結果等から、基礎学力が定着してきていると感じています。正答率も県・全国平均をこえていました。また、ドリルパークを活用することが多くの児童に定着し、時間があったらドリルパークを活用して学習するなど、自ら学習に取り組む姿も増えてきているように感じます。

上矢作小学校のように、ドリルパークと紙ドリルのよさを考え、効果的な活用を考えていくことが大切です。また、家庭と連携し、家庭学習の充実を図っていきましょう。

AI ドリルパークを授業改善に生かす

ドリルパークの取組結果を生かして授業改善を図っている岩邑中学校と大井小学校の実践を紹介します。

1. 岩邑中学校 単元における指導と評価の一体化

ドリルパークの生徒の取組結果を参考に、単元計画を考えています。そのことが、単元で付けたい力の定着につながっていると感じました。

【社会科 地理分野での実践】

- ①単元の出口の授業において「確認問題」を実施
- ②生徒の取組状況から誤答の多い問題に焦点を当てた学び直しの時間の位置付け
 - ・理解度の不十分な内容を理解できる問題の提示
 - ・どの理解度の生徒にも学びのある学習にするための学び方の選択



2 大井小学校 単位時間における指導と評価の一体化

授業のまとめを行った後、評価問題として、ドリルパークの問題を1問（1時間分）解き、その後の学習に児童も教師も生かすようにしています。

このように取り組むことで、子供、教師のそれぞれにとって次のような利点が生まれます。

児童の動き	教師の動き
<p>ドリルパークに取り組み、正誤を確認する</p> <p>正答率（正誤）を踏まえて、発展問題に取り組むのか、基礎問題に取り組むのかを選択する</p> <p>【発展問題】</p> <p>ドリルパーク（レベルアップ問題）</p> <p>教師の自作問題 作問 次時の予習</p> <p>【基礎問題】</p> <p>教科書の問題 等</p>	<p>・ドリルパークの問題を提示する</p> <p>・ドリルパークの学習状況の確認で、学級全体の児童の正誤を確認する</p> <p>・誤答の多かった児童への指導援助に生かす</p> <p>・正誤の状況から児童にどのような声掛けをするのかを決める</p> <p>※場合によっては全体の指導や、どの問題を取り組むとよいかを伝える</p>

【子供の利点】

- 自分の理解度を客観的に把握し、自分の力にあった問題を選択することができる。
- 多様な問題に取り組むことで学習内容の習熟を図ることができる。

【教師の利点】

- 学習状況を瞬時に把握し、習熟の指導に活かすことができる。
- 学習記録を基に定着状況を把握し、次時の指導に生かすことができる。



確認問題の結果を生かして単元指導計画の作成や修正を行ったり、単位時間の評価問題の結果を生かして終末の時間を充実させたりすることは、学習内容の定着を図るだけでなく、主体的に学ぶ児童生徒の育成につながります。

特集



学校生活を応援してくださる地域への恩返し ～自信と誇りを育む～

本校では、ふるさと教育を通して、「地域への誇りと愛着心」を醸成するだけでなく、「地域の役に立つ喜びを味わうことで、地域の担い手としての自覚を高める」ことをねらいとして取り組んできました。

①「東野音頭」から「東野ダンス」へ

令和4年度に東野に伝わる「東野音頭」を地域講師から習い、東野音頭の要素を取り入れたオリジナルダンスを制作し、「東野ダンス」と名付けました。そして昨年度から、全校児童で踊れるように練習し、地域の夏祭りで披露しました。リズムよく楽しそうに踊る子供たちに、祭り会場は大いに盛り上りました。また運動会でも全校で踊り、保護者や地域の方々に喜んでもらうことができました。



②地域を元気にする花壇作り

本校は、1年生の頃から野菜作りや米作り、クラブ活動などで地域の方のお世話になっているので、6年生が、卒業する前に恩返しをする機会は作れないかと考え、令和5年度から地域の老人クラブである東雲会のみなさんと地域の花壇作りを始めました。

児童が考えたデザインを基に、東雲会の方と一緒に作業することで、子供たちは「地域の人が見て喜んでくれたらうれしい」と、地域の役に立つ喜びを味わうことができました。また東雲会の方からは、「子供と一緒に作業ができて楽しかった」という声をいただき、地域を元気にすることができます。



③会場が一体となった「東野ふれあい音楽祭」

コロナ禍を過ぎた昨年度より、東野ふれあい音楽祭に全校合唱で参加しています。今年は、会場の人も一緒に参加できるように、児童の発案で、児童会を中心に花を作り、会場の皆さんに配り、歌詞に込められた思いを表す手話の手ぶりで参加していただきました。

会場の皆さん笑顔で参加してくださっているのを見て、子供たちも笑顔になり、地域を元気にすることに喜びを感じることができました。



「東野のよさを知り、大切にしたい」という児童が、令和4年は75.6%でしたが、令和5年は96.2%に増えました。これからも、ふるさとへの誇りや愛着心を育むとともに、地域をよくしたい、自分を役立てたいという地域貢献の思いを育てていきたいです。



豊かな心とたくましく生きる力が育つことを願って ～子どもの心と体が動く遊びを通して～

明智こども園

明智こども園は街の中心部にあり、園舎のすぐ裏には明知鉄道が走っています。大正ロマン館や資料館、大正路地など歴史や趣ある文化を感じられるものが多くあります。

園児たちは素直で人懐っこく、いろんな事をやってみたい気持ちがあり、友達と遊ぶ姿が見られます。しかし失敗するのが嫌で、最初から尻込みして取り組めなかったり、自分の気持ちを言葉で伝える事が苦手で自信がもてなかったりする姿もあります。

『失敗してもいい！諦めずにやってみよう！』を合言葉に様々な遊びに取り組んでいます。

～地域をめぐって体を育てる～

園周辺には明智の森など自然環境にも恵まれていて散歩コースになっています。

今年は暑い日も多く、なかなか戸外や散歩に行けない時期もありましたが、親子遠足で千畳敷公園に出掛けたり、地域の神社へ茅野輪くぐりに行ったりもしました。

4歳児でクロスカン
トリークースにも出掛
けて冒険気分を味わい
ながら歩き、
「なんかドキドキした
ね！」
「つかれたけどまた行
きたい！」
と長距離や山道を歩く
中で体力がついて、地
域を知るきっかけにもなったと思います。



～心が動く遊びで意欲を育てる～

3歳児は「椅子取りゲーム」をして、友達と一緒に簡単なルールを守って遊ぶ楽しさがわかるようになってきました。椅子に座れず悔しくて泣けてしまう子もいますが、自分の気持ちに折り合いをつけて我慢したり、次は頑張るぞと友達を見たりと心の成長が見られ

ます。周りの友達とのコミュニケーションがうまく取れるようになってきた事で他者意識や思いやりの心も育まれていくのだと思います。



5歳児は廃材遊びに興味をもち、最初は自分の好きなようにダンボールや空箱等を切ったり貼ったりしながら自分のロボットを作りました。友達の作った物を見たり、真似したり、遊んだりする中で、「次はこうしたい」「こんなのはどうかな？」等のイメージが膨らみ、創意工夫する事が増えてきました。



そうした経験を自分の考えとして友達に伝え、相談しながらみんなで大きなロボットを作ることになりました。園児たちに任せて、自由にやってみる事で失敗や分からぬ事も出てきますが、友達とのかかわりがさらに広がり、自分たちなりに解決しようとする姿が見られました。



園児たちの興味関心を引き出す遊び、「できた・わかった」が増えて、意欲や自信につながる活動に取り組んでいきたいと思います。



令和6年度

「恵那市教育実践研究論文」審査結果

◆優秀賞【一般の部】◆

学校名	氏名	論文テーマ	教科・領域等
大井第二小	山内貴公美	「生きる力」を育む歯・口の健康づくり ～「じぶんのために」「みんなのために」笑顔で取り組む歯科保健教育～	健康安全
恵那西中	酒井 英壱	必要な情報を取捨選択し、情報過多な世界を生き抜く生徒の育成 ～情報を信頼性の高さや根拠の明確化という視点で整理したNIEの有効活用を通して～	国語
恵那西中	樋田 洋介	確かな技能を身につけ、願いを形にできる生徒の育成 ～主体的に学ぶ「材料と加工の技術(整理棚制作)」～	技術
恵那西中	中島 健志	「生き生きと科学的に探究をし、自ら学びを深め続けることができる生徒の育成」 ～一人一人が理科の見方考え方を働きながら自然や日常生活とつながり、自身の興味関心に応じた学びの選択を生徒が行うための授業改善～	理科
岩邑中	伊藤 文彬	他者と協働し、広い視野から粘り強く学び続ける生徒の育成	社会
明智中	原田 将伍	豊かなスポーツライフの実現を目指した「体つくり運動」の実践記録	保健体育

◆優秀賞【新人の部】◆

学校名	氏名	論文テーマ	教科・領域等
恵那北小	熊崎 真子	どの子も学びの実感を得る音楽の授業～曲想の変化を楽しむ題材の指導を通して～	音楽
上矢作小	榛葉 優香	主体的に歯・口の健康づくりに関わる児童の育成	健康安全
恵那西中	小栗 千絵	社会の中で生きて働く美術教育を目指して～授業と社会をつないでいく題材の開発～	美術
上矢作中	後藤あかり	読むことの楽しさを味わえる授業を目指して	国語

◆優良賞【一般の部】◆

学校名	氏名	論文テーマ	教科・領域等
恵那西中	杉浦 栄美	Q-Uアンケートを活用し、生徒の特性を生かした学級経営の在り方 ～主体的に学校生活や授業に臨むことのできる生徒の育成を目指して～	学級経営

◆優良賞【新人の部】◆

学校名	氏名	論文テーマ	教科・領域等
中野方小	小坂 栄	主体的に伝え合う国語の授業を目指して ～自分の考えが相手に伝わる喜びが感じられる授業の在り方～	国語
串原中	緒方美乃里	誰もが自分事として考え、必然性のある人権指導 ～少人数の環境における課題を克服する人権教育を目指して～	特別活動

◆特別賞◆

学校名	氏名	論文テーマ	教科・領域等
明智中	中西 善裕	若手教員が育つ「メンター制」による研修の実践	管理経営

今年度の教育実践論文審査を終えて

一般の部…9点 新人の部…16点 合計25点 (※昨年度は37点)

今年度は、一般の部9点、新人の部16点、学校別では小学校12点、中学校13点、合計25点の応募がありました。いずれも願う児童生徒の姿を明確にもち、その姿を具現するために、子ども達に正面から向き合う先生方の姿が伝わる論文ばかりでした。

今年度の論文の特徴として、児童生徒の「主体的な学び」を目指した実践が多く見られました。そのために、いかにして児童生徒に課題意識や学びの見通しをもたせるかといったことや、自らに合った学習方法を選択させるかということ、どのように振り返りをさせるかということなど、それぞれが仮説に合わせて多様な方法で実践をし、振り返りを行っていました。さらに「協働的な学び」を充実させ、仲間とのかかわり合いの中で深い学びを生み出す授業づくりも見られました。その中で、タブレット端末を「文房具」として、あたりまえのように活用することで、効果を高めている実践もありました。



心に残る遊び・授業・先輩・職員



僕自身の心に残る授業（取組）を記します。これまで3校で校長を勤めました。校長になって良かったことは、英語学習を始めた頃から温めていたプラン「自分と自分の地域のことを世界に向けて発信する子の育成」を各校の特徴を活かしながら実現できました。英語の勉強を通して世界を知るために、自分や自分の周りの特徴を知ることが大切です。日本に住む我々は、よく似た言葉、文化、習慣、宗教、社会的規範をもっています。所謂、ハイコンテクストな文化的特徴をもつため、価値観が一的になります。美德だと思います。逆に、当たり前だと思っていることが外国人の人を感動させることもあります。異なる背景をもつ人たちに向けて自分を主張し、そのフィードバックを受けることで自己についての客観理解が深まります。子供たちの英語の学びの

大井小学校 校長 吉村 良

ベースは「自分と自分の周りのことを発信してみる。」まずはそこからです。岩邑小学校では言志録の有名な句を6年生が英語による群読で発信し、海外へ地域の誇る偉人の教えを伝えました。恵那東中学校では7カ国の人達と英語でのオンライン交流を行いました。特に、台湾嘉義市の中学校とは、定期的な交流を続け、その後、恵那市に招待することができました。大井小学校では、不定期ではありますが、食文化や季節毎の行事について外国の子供たちとオンライン交流をしています。この8年間は校長として、煩雑かつ不可避なことに“てんやわんや”なことが多かったのですが、これらの取組には相応の充実感があります。恵那市のミドルリーダーのみなさん。是非、自己の中で大にしている理想を恵那の地で実現させてください。これまで交流のあった先生方、ありがとうございました。今後、どこかでコラボできそうでしたら、下記emailへお気軽にお声がけください。

Email: ryoyoshimura@hotmail.co.jp